

## 第2号議案 2024年度事業計画案および収支予算案

### I. 2024年度事業計画案（令和6年3月1日～令和7年2月28日）

#### 1. 定期刊行物および資料の刊行

日本土壤肥料学雑誌（第95巻第2号～第6号および第96巻第1号の計6冊、A4判）、Soil Science and Plant Nutrition（Vol.70, No.2～No.6、Vol.71, No.1の計6冊、A4判）を刊行する。また、2024年度福岡大会に際して日本土壤肥料学会講演要旨集（第70集）を電子版として刊行する。

#### 2. 講演会および研究会等の開催、支援

##### 1) 「土と肥料」の講演会

2024年5月18日（土）、総会終了後に、東京大学山上会館大会議室において「土と肥料」の講演会を開催する。テーマを「土壌管理のデジタル化を目指して」とし、講演者と演題は、丹羽勝久氏（株式会社ズコーシャ）「リモートセンシング技術を活用した土壌情報の面的評価」、朝田景氏（農研機構 農業環境研究部門 土壌環境管理研究領域）「土壌の窒素見える化ツールの開発と適切な窒素施肥に向けた活用」である。なお、本講演会は日本学術会議の後援を得て実施する。

##### 2) 学会創立100周年シンポジウム

###### (1) テーマシンポジウム

土壌肥料学分野の具体的な研究成果や技術の叡智、学問としての面白さをこれから専門分野に進んでくる高校生や大学初年次生に向けて、また、一般向けに分かりやすく発信し、持続可能な社会構築に貢献することを目指して、会員応募企画に基づき公開シンポジウムを開催する。

2024年度は、「サステイナブルな未来を創る土壌・植物科学」をテーマとして3回（第1回「地球温暖化解決への土壌からのアプローチ」、第2回「持続的食糧生産（仮題）」、第3回「土壌・生態系保全（仮題）」）開催する。また、「腐植物質の有効利用による農業生産力の強化と増強」をテーマとするシンポジウムを開催する。

###### (2) 支部大会シンポジウムの限定公開

支部大会において開催した学会創立100周年の記念シンポジウムの動画を期間限定で学会YouTubeチャンネルに公開する。

##### 3) 2024年度年次大会

2024年度福岡大会は、9月3日（火）～5日（木）に福岡国際会議場において一般講演の口頭発表、ポスター発表およびシンポジウムを対面方式で行う。一般講演では、若手口頭発表優秀賞および若手ポスター発表優秀賞を選考し、表彰する。また、高校生による研究発表会を行い、優秀発表を表彰する。

シンポジウムのテーマについては、従来と同じく会員から公募し、これを基に部門長会議で検討して設定する。

学会賞等授賞式では、第 69 回日本土壌肥料学会賞 3 名、第 29 回同技術賞 2 名、第 42 回同奨励賞 5 名、第 13 回同技術奨励賞 1 名、日本土壌肥料学雑誌論文賞 2 件、SSPN Award 1 件に各賞を授与する。各賞の受賞者および受賞業績は以下の通り。

#### 第 69 回日本土壌肥料学会賞受賞者と受賞業績

- ・江口定夫：人－土壌－環境の相互作用下の窒素等物質循環の定量化とモデル化
- ・高野順平：栄養輸送体による栄養感知と細胞内局在制御の解明
- ・矢内純太：土壌肥沃度の時空間変動の解析と持続的農業への応用

#### 第 29 回日本土壌肥料学会技術賞受賞者と受賞業績

- ・篠原 信：有機質肥料活用型養液栽培および土壌創製技術の開発
- ・西村誠一：多様な農地管理における温室効果ガスの発生実態の解明と排出削減技術に関する研究

#### 第 42 回日本土壌肥料学会奨励賞受賞者と受賞業績

- ・アシルオグル ムハンメット ラシット：水田土壌における原生生物の生態と機能に関する研究
- ・菅波真央：イネの光合成改良に向けた Rubisco と Rubisco 活性化酵素に関する研究
- ・反田直之：栄養輸送や応答の数理モデル研究
- ・永野博彦：多様な研究手法を用いた陸域生態系における温室効果ガス動態の解明
- ・吉成 晃：植物のホウ酸輸送体の細胞内輸送機構の研究

#### 第 13 回日本土壌肥料学会技術奨励賞受賞者と受賞業績

- ・中村嘉孝：有機質資材の長期的影響をふまえた砂質畑における施用基準の策定

#### 日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者と受賞論文題目

- ・安藤 薫、糟谷真宏、中尾 淳、中島聡美、村野宏達、中村嘉孝、瀧 勝俊、矢内純太：愛知県露地野菜畑土壌における非交換態カリウム含量の規定要因および作物カリウム吸収への寄与 日本土壌肥料学雑誌 第 94 巻第 3 号 163～169 (2023)
- ・平野七恵、江口定夫、織田健次郎、松本成夫：物流データに基づく日本の食料供給システム及び畜産業セクターにおける過去 40 年間の窒素フローと窒素利用効率の解析 日本土壌肥料学雑誌 第 94 巻第 1 号 11～26 (2023)

#### SSPN Award 受賞者と受賞論文題目

- ・Ayane Kan, Hayato Maruyama, Nao Aoyama, Jun Wasaki, Yoshiko Tateishi, Toshihiro Watanabe, Takuro Shinano: Relationship between soil phosphorus dynamics and low-phosphorus responses at specific root locations of white lupine *Soil Sci. Plant Nutr.*, 68(5-6), 526-535 (2022)

学会賞等授賞式に引続き、第 69 回日本土壌肥料学会賞 3 名、第 29 回同技術賞 2 名、第 42 回同奨励賞 5 名、第 13 回同技術奨励賞 1 名の受賞記念講演および 2024（令和 6）年度日本農学賞・読売農学賞受賞者の波多野隆介氏による特別講演を行う。また、論文賞 2 件および SSPN Award 1 件の受賞者については、受賞記念ポスターを展示する。

受賞記念講演および特別講演に引続き、懇親会を開催する。

#### 4) 支部大会等

- ・北海道支部：2024 年度北海道支部秋季支部大会・支部総会（12/5、旭川市民文化会館、旭川市）を開催する。また、評議員会（6 月上旬、11 月上旬メール会議）、野外巡検を予定している。
- ・東北支部：2024 年度東北支部大会、支部役員会、支部総会、支部大会企画講演および記念講演を開催する（7 月、青森県内）。
- ・関東支部：2024 年度関東支部大会、支部幹事会および支部総会を開催する（11/1、山梨県立図書館、甲府市）を開催する。
- ・中部支部：2024 年度中部支部特別講演会・支部大会・支部総会（11 月、愛知県内）、評議員会（6 月、11 月）を開催する。また、土壌教育活動事業として土壌観察会（7 月）および岡崎北高校 1 年生対象の連携講座（8 月）を愛知県豊田市自然観察の森において開催する。
- ・関西支部：2024 年度関西支部講演会（12 月上旬、鳥取市）、関西土壌肥料協議会シンポジウムおよび関西支部と関西土壌肥料協議会の合同役員会を開催する。
- ・九州支部：2024 年度九州支部例会、支部賞選考委員会、支部常議員会並びに支部総会（開催日および開催場所は調整中、鹿児島県内）を開催する。
- ・支部長連絡会：2024 年度支部長連絡会は、2024 年度福岡大会前にオンライン開催を予定し、支部間および本部－支部間の情報および意見交換を行う。

### 3. 研究の奨励および研究業績の表彰

定款および細則に基づき、第 70 回日本土壌肥料学会賞、第 30 回同技術賞、第 43 回同奨励賞、第 14 回同技術奨励賞、第 14 回同貢献賞、日本土壌肥料学雑誌論文賞、SSPN Award など顕著な業績を挙げた者を表彰する。

#### 4. 内外の研究者、技術者、他学会等との連絡および協力

定期刊行物の国内外との交換、国内関連学会等と共催の研究討論会等を行い、学術交流・国際交流の強化を図る。

- ・日本農学会に協力し、日本農学会シンポジウムのテーマ企画および話題提供者の推薦を行う。
- ・日本学術会議の発信情報を、学会 HP などを通じて会員へ提供するとともに、土壌科学分科会、IUSS 分科会などと協力して IUSS の諸活動に連携する。
- ・ESAFSサポートオフィスを通じて関連情報を発信する。

- ・本学会が加盟（オブザーバー加盟を含む）している地理学連携機構、福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会、男女共同参画学協会連絡会を通じて関連学協会と連携する。
- ・第16回ESAFS（3/26～29、タイグエン市）に代表者派遣を行う。
- ・IUSS100周年記念祝賀会および総会（5/19～21、フィレンツェ市）へ担当者派遣を行う。
- ・第36回環境工学連合講演会（5/28、オンライン）を共催し、本学会の中尾淳会員が「リジェネラティブでカーボン・オフセットな農業に向けた風化促進技術の開発」を講演する。
- ・栃木県立博物館主催観察会「たんぼ物語」（6/1、8/24）を後援する。
- ・第7回国際土壌分類会議（7th ISCC：6/3～9、北海道道東地域）を共催する。
- ・第60回アイソトープ・放射線研究発表会（7/3～5、東京都）を協賛する。
- ・第34回環境工学総合シンポジウム2024（7/17～19、和歌山県高野町）を協賛する。
- ・地盤技術フォーラム2024（9/18～20、東京都）を協賛する。
- ・第9回土壌鉱物・有機物・微生物の相互作用に関する国際シンポジウム（ISMOM2024：10/15～18、つくば市）を共催する。
- ・IUSS中間会議2024（10/20～24、南京市）への担当者の派遣

## 5. 本学会の委員会等活動

- ・企画委員会：2025年度総会終了後に開催する「土と肥料」の講演会を企画する。
- ・財政基盤整備委員会：引き続き支出の削減に努めるとともに、積極的に収入の拡大策を検討し、中長期視点から財政収支バランスの改善策を検討し、理事会へ提案する。
- ・国際対応：①IUSS、ESAFSを中心に情報収集・発信および渉外対応により、国際土壌の10年関連活動を継続する。②2024年度に共催予定の日本開催国際会議の開催を支援する。
- ・部門長会議：①年次大会におけるシンポジウム企画応募案の検討および一般講演プログラムの編成、優秀発表賞の選考を行う。②会誌進歩総説、欧文誌特集の企画を検討する。
- ・土壌教育委員会：①福岡大会において高校生による研究発表会を実施する。②教員研修およびその他の普及事業を行う（時期および場所未定）。③第9部門と連携した各種事業を行う。
- ・広報：①学会ホームページのさらなる改善を図る。②学会公式SNSによる情報発信拡充を図る。③土壌教育委員会とともにエコプロ2024にブースを出展する（12月）。
- ・学会創立100周年事業準備委員会：2027年の学会創立100周年に向けた事業企画を検討・立案し、理事会に提案する。

## 6. その他

本学会の目的達成のため、以下の事業を行う。

- 外部の顕彰および研究助成の推薦依頼に対応する。
- 学会創立 100 周年事業の企画検討を進め、その財政基盤の確保を図りつつ、先行して取組む事業を実施する。
- 学会創立 100 周年事業の推進、若手会員支援の一助とするため、寄付募集を継続する。
- 会員確保の一環として 2023 年度に行った年次大会への招待などの賛助会員へ提供するサービスを継続する。